

ハッピー両立宣言!!

育児ママ&育児パパを活かす～



強まで高まってきていますが、男性ではまだ約0.5%にとどまっています。しかし、「仕事」と「子育て」で豊かな価値観を持つ消費者・生活者のニーズに応えることができます。育児休業の取得促進は企をすすんで取るコツを見ました。



▲育児に仕事に頑張っている野口好子さん。
仕事の充実感が子育てにも良い影響を与えているそうです。

「結婚や妊娠で仕事を辞めるのになつて思っていたんですが...」この話するのは、IC関連装置・建築部品などの製造メーカー・三松(福岡県筑紫野市)の野口好子さん。1997年7月に三松に入社した野口さんは、営業チームで外部からの受注を工場などに生産指示する「要の仕事」(常務取締役の田名部徹明さん)をずっと担当。02年に結婚してからは「出産しても職場に復帰して働きたい」と思うようになったそうです。

正社員は男性85人、女性21人という規模の三松。育児休業の社内規定はあっても細目はなく、実際に取得した人もいなかった(田名部常務)。妊娠した野口さんが田名部常務に相談を持ちかけてバックアップ体制が決まっていたということ。05年12月に出産した野口さんの育児休業は、06年12月までの1年間。休業前のスムーズな仕事の引継ぎ、順調な職場復帰、保育園へのお迎えのため勤務時間の30分繰り上げのいずれも、田名部常務との間のコミュニケーションの賜物です。

育児休業 ママの場合

三松 営業第一チーム
営業サポート担当

野口好子さん(30歳)



profile.....

2002年11月夫・佐藤一親(かずちか)さんと結婚。05年12月18日長女由季ちゃん誕生。同11月から産休に入り、同12月から06年12月まで1年間育児休業を取得。
 <仕事>好子さん:入社以来、外部から注文を受け工場等に生産指示などの営業サポート業務を一貫して担当。
 一親さん:会社員(設計担当)

キャリアと積極さが会社を動かす 上司とのコミュニケーション大切に

「仕事場に自分の存在感があるのが生きがい」という野口さん。仕事への積極さと責任感こそが、会社に制度を作らせる原動力なのでしょう。

野口さんの育休中の1日

7:00	起床/朝ごはん
8:00	一親さん出勤
午前中	家庭内の家事
午後	買い物
19:00	夕ごはん
21:00	一親さん帰宅
23:00	就寝



野口さんの育休 ホップ・ステップ・ジャンプ

- ホップ** 妊娠前から上司の常務に制度の詳細や取得可能性を相談
- ステップ** スムーズな業務引継ぎで仕事に支障をきたさない体制作り
- ジャンプ** 休業中に赤ちゃんを連れて1か月に1回は会社を訪問して復帰に向けた情報収集

妻の仕事を積極的に応援 子育て&家事で二人三脚

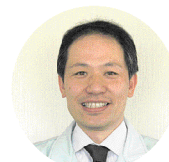
共稼ぎ家庭で育ち、姉も子育てしながら働いていますので、僕自身、妻が働くことを応援しています。妻の負担に比べれば些細ですが、僕も食器を洗ったり、子どもが病気がした時に交代で休んだり、育児・家事はできるだけお互いが五分五分で協力しあう、夫婦二人三脚を目指しています。子育てを理由に家庭に入るより仕事も子育ても頑張っていきたいと輝く女性であってほしいと思っています。



野口好子さんの夫
佐藤一親さん

会社にとって 育児休業取得のパイオニア

うちぐらいの規模の中小企業にとって、女性社員や高齢者の戦力化は、今後ますます大切な課題になります。せっかく仕事に慣れた社員が妊娠や子育てのために完全に退職してしまったのでは、本当にもったいない。その意味で、育児休業パイオニア的存在の野口さんがうまうまかかなければ困るという気持ちで、会社としても応援してきました。これに続いて育児休業を取る女性社員が続々と出てほしいものです。



三松
常務取締役 田名部徹明さん

子育て応援団から

